

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：

広島県福山市立松永小学校

活動名：

強い学校組織の構築

～全職員で取り組む意識～

解決すべき課題：

- ・若手の教員が増えてきている。
- ・様々な問題が後手後手に回る原因の一つとして、情報共有不足があげられる。
- ・一人一人の力量を高めることが児童のより良い成長につながる。

目標・方針：

- ・力量を高めるために、自己分析を行い、その課題を共有化することで若手も中堅もベテランも個々の力量アップに向けての取組を集団としておこなうことができるだろう。
- ・よい雰囲気職員集団をつくることで、子どもたちの笑顔へとつながるだろう。

活動内容：

① 一人一人の力量を高める取組

(ア) 自己分析を行い、力量アップのための目標と手立てを明確にする。(写真(ア))

(イ) 組織的に対応できるよう研修を行い、実践する。(写真(イ))

② 同僚性を高め、年齢を問わず協力できる体制を築く。

(ウ) 月 1 回の「松トーク」(雑談、相談等)を行う。(写真(ウ))

活動の成果：若手・中堅教員の感想からも、教員の力量や同僚性が高まり、それが児童へのよい影響

につながったと考えられる。

(中堅教員)

他校の若手教員の悩みを知り、そのことで、その教員と今までの気にかけておいてあげようというコミュニケーションをとるようになった。
 ・自分や他の教員の強みや、学校全体の課題を把握できたことで、強みや強みの課題解決の方法を知れた。

(若手教員)

・SWOT分析によって、自分の課題がより明確になり、自らの長所を生かすことから課題を克服する手立てを考えられた。実際に、手立てを実行することで、先輩の先生方から様々な授業づくりや児童観について情報を得ることができた。日々の充実感につながっている。

アピールポイント (アイデアや工夫)：

- ・課題を明確にし、ミドルリーダーの立場の者が研修を行い、学校を中心となって引っ張る意識を持たせたこと。
- ・年齢や立場による壁を取り除く努力を行い、職員室の中でなんでも話ができるような柔らかい雰囲気づくりに取り組んだこと。
- ・自己分析をしっかりと行うことで、課題を明確し、協力体制を整えたこと。

(ア) 課題を明確にする研修 (SWOT 分析)

課題を共有し、取組内容の話し合



学校の中核を担う教員が個々の課題を把握。全員での協力体制を築く。



(イ) ミドルリーダーの立場の教員が研修を行い、中心となって学校を引っ張る意識をもつ。



(ウ) 月 1 回の「松トーク」の開催。毎回、様々なメンバーで話をして、同僚性を高める。



日々の授業や学級経営の悩み、プライベートな報告等、年齢関係なく様々な話をする。